



東九州支部報



韓国智異山・天王峰山頂にて (5月2日)

第七回日韓交流登山

報告とお礼

支部長 加藤英彦

日本山岳会東九州支部と韓国山岳会蔚山支部との交流登山会は、今年(2011年)は日本より韓国に訪問するという年にあたりました。5月の連休を利用して大分から12名(男8名女4名)のメンバーで4泊5日の日程で行いました。

今回特に登る山を韓国本土最高峰の智異山(1915m)を指定して計画を依頼しました。

智異山のエリアが蔚山支部の範囲ではないため、蔚山支部も韓国山岳会慶南(Kyeongsan)支部に応援を依頼して、山行には慶南支部の支部長 崔 在一氏に2日間同行していただき、大変お世話になりました。

智異山は古くから韓国登山のメッカとして知られており、国立公園で登山施設も充実し、各地に点在する「待避所」とよばれる山小屋があり、又韓国国内からも多くの登山者が訪れていて、山行中にも若い集団にも出合い鍛錬の場としても最高の場所であるようでした。そして、現在もツキノワグマの生息地として有名です。

我々の登ったルートは最もポピュラーなルートでした。釜山よりその日のうちに中山里という登山基地の民宿に入り、その夜は日本と韓国との交流会で盛り上がりました。

翌日はゆっくりと登りチャントモクの待避所に泊まり、次の日に天王峰(チョナンボン)の山頂に登り、最高峰からの景色を楽しんだあと法界寺を経由して中山里に下山。慶南支部長崔さんとここでお別れして蔚山支部の方々の車で釜山経由で蔚山へ。

《 も く じ 》

第七回日韓交流登山	
報告とお礼	1
山行報告	2
参加者の感想など	6
参加者名簿	11
コースタイム	12

その夜も蔚山支部との夕食会でまたまたお世話になり、泊まるのは李さんのご自宅へ招待され12名が全員お世話になる。

新築されたご自宅で少しは韓国

の生活を味わういい体験になった。そして最後は恒例となった南山(金鳥峰)を前回とは反対の東側より往復し、下山後慶州郊外の洒落た民家風のレストランにて昼食、帰路古代人の残した岩刻画がある遺跡と博物館を見学し釜山へ。ここまでいろいろとお世話になった蔚山支部の李顧問と金夫人と別れてカメラアラインで博多へ。

船中にて今回の山行でいろいろと頂いたものを披露してみてもその数の多さと気持ちのこもった品にただ感謝するのみでした。毎回訪問するたびに大変面倒よく接待くださっている蔚山支部の方々にはただ「お世話になりました」という以外なにもありません。

無事に智異山に登れたのも皆さんのおかげです。このお返しはまた来年は蔚山支部からのお客さんを心をこめてご案内することしかありません。

来年もまたお越ください。お待ちしております。



韓国本土最高峰の智異山など 山行報告

飯田勝之

5月1日朝6時大分駅発「ソニック6号」は、途中別府駅と、宇佐駅から乗ったメンバーも加えて総勢12名。これが7回目を迎える日韓交流登山の参加者だ。8時30分博多駅に着くと、駅の売店で各自昼ご飯を買って、そのまますぐにタクシーで福岡港へ。高速道路を下りると一般国道で、さらに狭い舗装道路になり、山間を進んでいくと前方に高い峰が見えてきた。運転する李さんが「あれが天王峰です」という。かなり高い。

中山里へ

街を抜けて、高速道路で西に向かう。釜山港に着いた時に、街全体を薄い霧のように覆っていた黄砂は、西に行くほど濃くなっていくようで、近づくやまなみが全て霧の中だ。

速度を下りると一般国道で、さらに狭い舗装道路になり、山間を進んでいくと前方に高い峰が見えてきた。運転する李さんが「あれが天王峰です」という。かなり高い。

釜山を出て約3時間、狭い谷沿いの道を上ると中山里だ。韓国登山のメッカ、智異山の登山基地の(催支部長)

12時50分過ぎ、ほぼ予定どおりに釜山港着。釜山湾の入り口には建設中の橋の大きな鉄骨のピアが立っている、経済発展を続けるこの巨大な貿易港は、訪れるたびに姿を変えているように思える。入国手続きを済ませてロビーに出ると、もうそこには韓国山岳会蔚山支部の李顧問ほかのメンバーが出迎えて来てくれた。4台の車に荷物を積み込み、各自の車に分乗して、直ちに出発。向かう先は智異山(智異山)、天王峰(天王峰)の登山基地、中山里(チュサンリ)登山口だ。



(民宿の前ですべてのメンバーが揃って)

この里は、谷沿いに民宿やホテルが点在するリゾート地でもある。今宵の宿は、この中山里の最奥にあるレストランに近いところにあった。

レストランの横で1人の背の高い、体格の良い男性が我々一行を出迎えてくれた。李さんが紹介してくれた彼の名前は「催支」といい、韓国山岳会慶南(慶南)支部(慶尚南道)の支部長だ。道庁(昌原市)の支部長だ。智異山周辺の地元支部長だ。

この彼が、智異山での2日間を、なにくれなく面倒見れくれた、実にサービス精神とバイタリティーに富んだ人なのだ。

民宿の部屋にいったん落ち着くと、皆で外へ出て、民宿前に張られた歓迎の横断幕の前に記念写真

などを撮って休憩時間をすこす。宿舎の前の岸には、2年前に天皇山に登る途中で見た、錦囊花(クムナンファ)・コマクサの仲間が咲いていて、懐かしく思えた。

午後5時30分、数分ほど歩いたところにあるレストランへ移動。ここで日韓交流の場が始まる。韓国側は15名、食事をしながらの交流で、自己紹介に続いて日韓のうたの交歓会。昨年霧島に来た芸達者な彼はなかなかだったが、それでもにぎやかでなごやかな懇親会は夜遅くまで続いた。



(第1回目の乾杯)

チャントモック小屋へ
翌朝は、7時にレストランで朝食で、7時50分レストラン前を出発。登りは中山里、溪谷沿いの道で、登山口はレストランから数分

のところにある。今日の山行に同行してくれるメンバーは、催支部長を入れて韓国側は10名である。登山口は約630mで、今夜の泊まりは1670mの主稜線上にある山小屋で、高度差約1,040mのアルパイトだ。

(いざ出発・レストラン前で)



溪流沿いの道は実に良く整備されている。先頭をリードする催支部長は20〜25分おきに休憩をとってくれる。結構急な溪流沿いの道で、もうぼちぼちと思うころには休憩だ。そのペースは、中高年がほとんどの我が隊にとっては大助かりだ。その休憩の都度、催支部長や、蔚山支部の会員が、お菓子や、キャンディ、ミカンはては餃子などと、必ず何か出してみんなに配ってくれる。喜んだのは、

初めのうちで、度重なつてくると、来年大分に招いた時のお返しの際に気がなつてくる。

登り初めて約3時間で岩流(いざ)と滝という、小さな滝のそばで休憩。道脇には点々とカタクリの花が見られるようになる。さらにその上の、賽の河原のように小さな無数のケルンが積まれた岩床を渡りながら見上げると、頭上はるか高みに天王峰が見える。右に左(賽の河原から天王峰(左)を仰ぐ)



に吊り橋を渡っていったところの、橋の下の大きな岩の上で11時半、昼食休憩となる。弁当は、朝もらった海苔巻きの筒型おにぎり。結構これがうまかった。1時間以上ものんびり休憩で、立ち上がるのが億劫になりかけたところで再出発だ。

傾斜がいつそう急になる。絶えず聞こえていた沢の水音が遠ざか

り、やがて聞こえなくなると、急な登りとなる。石の階段や木の階段、梯子段があらわれる。一步、一步の登りだ。木の階段や木道に(休憩終えて、いざ出発)



は、車のタイヤを細長く切ったのを貼り付けて、クッションが良い。そんな木や石の急な階段を登っていると金支部長が「もう近いよ」という。

ほどなくエンジンの音が聞こえてきた。小屋の自家発電の音のようだ。そして、まもなく上に小屋の屋根が見え、階段の横には、水の蛇口が三つ並んで、ひねると清冽な水が出てくる。その美味しさと言ったら言葉に尽くせないものがあつた。

又食までの時間

チャントモック小屋に着いたの

は午後1時半過ぎだが、チェックインは6時だという。小屋に着いたら、何はさておき『まずビール』と決め込んでいたのに、聞くところではビールがおいではない。朝出る前に、『山小屋にビールがあるか』と聞いた時には『ある』と言っていたのに・・・冷たい水で我慢するしかない。荷物を小屋に入れて、ひと休みして、明日いく天王峰とは逆方向に、稜線を歩くことになった。

(チャントモック小屋)

支部長、止まる気配を見せない。どんどん西へ進む。前方に小高い岩峰が見えて、階段を登り着いたところで止まった。どうやらここが今日の終点らしい。

振り返ると、午後の日射しに天王峰が高く美しくそびえている。西方はまだ曇々と遙か彼方までやまなみが続いている。智異山系はどこか、祖母・傾山系に似ている。山系としてはやや小振りだが。

(岩峰にて・後方は天王峰)



引き返して、小屋に着いたのが午後4時40分。それからが自炊時間だ。三つの班に分かれて、各々が準備したレトルト食品などで、小屋の横の広いテラスでダイナミックタイム。金支部長が、担ぎ上げた『バラントイン』のポトを開けて、みんなに振る舞って後の日を受けて、西に向かって進む。広い道の縦走路が続いている。ここまでかと思いきや、先頭の金等なスコッチにありつこうとは思

いもしなかった。氏の豪快な振る舞いに改めて感歎する。

その横での広場では、高校生らしい集団が、先生の号令一つできびきびと動いている。日本では見られなくなった光景だ。韓国の若者は、徴兵制もあるし、統制の厳しさについていけるように教育されている。

(高校生の集団)



午後7時過ぎに床につく。小屋はいつの間にかほぼ満員に近い人である。少し寝たが、熱くて目が覚める。毛布を借りたが、とても着てはられない。それどころか着ている上着などを脱いでいくしまった。

天王峰へ

夜中に目覚めてトイレに行った。外は霧だった。そして、明け

方は、霧に雨粒が混じっている。昨日の朝の天気予報を聞いたなら

「心配要らないですよ」だったが、それでもなかった。各々自炊の朝ご飯の後、雨具をつけて出発の準備をする。横では、我々より遅く行動を開始した高校生集団が、走り回るように行動し、さつさと天王峰へ向けて発つていく。遅れて7時40分過ぎ、我々も出発だ。

緩い登りを20分で帝釈峰(ていせき)展望台。心配していたが、空はだんだん明るくなってきている。ザックカバーや雨具をとって、心も軽く目の前の天王峰をめざす。荒々しい岩峰の主峰は見るからに険しそう。岩つきの稜線をアツ(天王峰山頂直下にて・李氏撮影)



ブダウンしながら登っていく。最後の急登にかかる前で、高校生集団が下ってきた。危ない岩の道を、

軽シューズで駆けるように次ぎ次と下り去っていく。「ナニヨアセヨ」と声をかけると「アニヨハシムニカ」と何人もから帰ってくる。

天門(てんもん)という岩をくぐりぬいた穴をくぐって登り、岩稜をのぼりつめて、9時15分韓国本土最高峰の天王峰に着く。天気は曇っているが、雨の心配はまったくなさそうな雲行き、暑くなく、寒くなく、降らず、照らずの絶好の登山日和にみんな大喜び。

幾人か山頂にいた韓国の登山者は、時ならぬ日本語集団に驚いている。おのおの、それぞれいるるな記念写真の撮影。日韓全員がそろっての写真は、そばにいた人にシャッターを押してもらおう。恒例の山頂万歳で下山開始。



(山頂での万歳)

法界寺を経て下山

10時10分、山頂を後にして、下りは法界寺経由の道だ。階段、(さあ、下山開始)



ハンゴ、石段などかなり急な下り道が続く。木の階段に貼り付けられた古タイヤのクツションが下りの足にはとても優しい。

登り道ではチラホラ見られたカタクリの花が、この下り道では随所に群れをなして花を咲かせている。しかし、あいにくの曇り空で花びらは綴じたまま、ほんの僅かに薄日の当たっているとこのの花が、元気なさそうに開いているだけだ。

下りも、25分おきぐらいに休憩をとってくれる。そして、下りはじめて1時間20分ほどで、お寺の門の前に着く。法界寺(법계사)だ。

智異山は、韓国における登山のメッカであるとともに、かつての山岳信仰の聖地であったことでも有名だ。いたるところに寺が散在し、いまでも多くの参拝者が登山している。その一つがこの寺である。金支部長の案内で寺に参る。

石段を登り、幾つもある参拝所を見て、お賽銭を上げる。帰りに金支部長のふるまいで、寺の境内で売られているブドウの房を皆に分けてくれる。冷たいブドウが美味しかった。何から何まで、心憎いほどの心遣いだ。

寺からは、予定の中山里溪谷への下りをさけて、途中の林道めざしてコースをとる。こちらはお寺(法界寺山門と僧支部長)



に参る人の道のように、たくさん軽装の人たちと行き違う。しかし長い下りである。傾斜が緩くなくても山道は続く。時刻も12時を過ぎおなが空いた。そして、途中の岩の上の休憩を入れて、寺

から1時間20分でようやく広い車道に出た。

そこにはバスが一台待っている。このバスは、法界寺参拝者向けの有料バスで、このバスに乗って10分ほどで昨日出発した登山口のレストランに着いた。もう1午後時を過ぎていく。ようやくレストランでの昼食。渴いた喉に何よりも美味しかったのは、山小屋でも飲めなかったビールだ。

蔚山の交歓会

昼食後は、催支部長にお礼を言い、彼の見送りを受けて、四台の車に分乗して一路蔚山へ。長い道のりだ。午後5時過ぎ、蔚山市街地に入り、着いたところは夕食場所。李顧問の奥さん、金さんがそこで待っていた。ここでまた日韓交流の宴である。お別れにみんなを組んで、アリアンを歌う。
(アリアンの合唱)



(李氏宅での二次会)



その後、今宵の宿となる李夫妻の自宅へ。車で案内されたところは、蔚山の古くからある市街地の中で、今年リニューアルしたばかりという家は、敷地75坪、建

(李氏邸宅)



坪4.2坪で、部屋は5坪1部屋、4坪1部屋、6坪1部屋、11坪の居間という、かなり瀟洒な邸宅である。着くとすぐに金夫人の手作りのカーネーションをあしらったボールペンのプレゼントを受ける。こういうちよつとした心遣いが、心憎い。順番にシャワーを浴びて、居間で全員そろって、デザートやお酒で宴会の続き。

南山

4日の朝ご飯は金夫人が早朝から準備した、アワビのおかゆだ。午前8時過ぎに李さん宅を出て、今日の山行目的地、南山へ。

慶州(ギョング) 南北8km・東西4kmに広がり、40余りの溪谷をもつこの山、山全体が世界歴史遺産に指定されており、屋根のない博物館の異名を持つように、山全体が遺跡の宝庫である。5世紀半に新羅の王朝に仏教が伝わったのち、この山は壮大な山岳仏教の修験道場となり、今日、1000を超える寺院、40近い石塔、60ほどの石仏、磨崖仏が残っているという。

我々は今回で3度目の南山登りだが、登山道は山中に無数にあり、前2回は山の西側からのルートだったが、今回は東側から登ることになっている。9時過ぎ、広い駐車場から新羅の時代の伝説の舞台となった『書出池』のほとりを通り、田圃や民家の脇を通って山道へ入る。緩い登りで始まり、アカ

(書出池のほとり)



マツの多い林の中を登っていく。途中、10分ほど寄り道をして、4重の石塔を見る。その後、点々と遺跡を見ながら登っていくと、見覚えのある広い道に出た。2年前に通った道だ。

この出合から木の階段道を登ると頂上前の主稜線で、ここは4年前も通った3度目の道で、そのすぐ先が金鰲峰(ギョウボク)・468m、南山の山頂だ。時刻は1時半に近く、今回で3度目のこの山頂での記念写真撮影。奇しくもこの山は3回とも、すばらしい晴天に恵まれている。

下山は途中から違う道で、やはり山中にある石仏や線刻仏などを見ながらの下山で、みな空腹になり、次第に無口となってひたすら急ぎ足の下山だ。登山口到着は12時50分だ。

(金鰲峰・南山山頂にて)



車で移動し、慶州郊外の田圃や畑の中にある、一見普通の民家と思われような作りのレストランへはいる。待ちわびたビールと韓国料理のランチで、空いていたおなかには満腹になる。

岩刻画にお別れ

その後に案内されたのは、蔚山郊外にある古代人の壁画、岩刻画展示館だ。狭い道を入っていく、着いたところは赤茶色の前衛風の建物だ。上から見ると鯨の形になっていると言ふこの建物は、近くにある『盤龜台岩刻画』と『川前里刻石』と名づけられている岩刻画の標本、見本展示館で、この中を見て、さらに車で移動してその奥にある太和江(タヘガハ)の絵を見

に行く。川岸に双眼鏡が設置され、へ帰る便となっている。出港20時20分だが、出港間際まで見送りが掘ったという岩刻画見えるというのだが、見方が下手なのか私に判断としなかった。

(『盤亀台岩刻画』前で)



これで、蔚山支部の手厚い観光サービスが終わる。この後、4台の車に分乗して釜山へと送ってもらおう。帰りは釜山から船で福岡

登山では大変お世話になりました。皆様は皆若く元気な姿に感動すると共に貴国の輝かしい未来を予感しました。南山の山では信仰と山の融合を見ました。又李様の若々しい歩き振りに私は付いて行くのが大変の努力でした。そして奥様のおいしい食事、自宅に居るような安らぎを感じました。

私は韓国の釜山で生まれ、中学2年まで暮らし、満州(中国)に渡りました。

釜山の発展振りは目を見張るものがあります。又いつか釜山を訪れて、昔住んでいた所などゆっくりと訪れたいと思います。

今回沢山の方々にお会いして嬉しかったです。人々の交流を通じて人類は皆一つだと感じました。CHO-UYUの報告書有難う御座います。私は1999年9月に訪れて7200まで登りました。雪崩に逢いました。

韓国文字は読めませんが写真を見てとても懐かしい思いです。「百聞は一見にしかず。」という言葉があります。

其の場所を訪れ、其処に住む人々と交流し、其処の人々が食べている物を共に食べて、初めて理解

が4回目になる。我々の希望で韓国本土最高峰の天王峰(チョナンボン)という事で、大いに期待しての参加であった。

釜山港に到着と同時に、出迎える李顧問と天王峰登山基地の中山里の民宿へ向かう。途中、高速道路からの風景が霞んでいる。かなりひどい黄砂である。

初日の歓迎会は、李顧問、慶南支部の崔支部長の歓迎挨拶に始まり、東九州支部長の加藤団長のお礼の挨拶、続いて参加者全員の自己紹介が行われ大いに盛り上がる。

11時に法界寺(ポップケサ)到着。お寺では釈迦生誕祭で提灯が境内いっぱい飾られ、多くの参拝者が熱心に祈っていた。一気に下り、中山里の食堂で昼食の後、蔚山支部の会員の車4台に分乗し蔚山へ向かう。蔚山到着後、中心部の韓国料理店にて夕食、その後新築間もない李・金ご夫妻宅で宿泊のお世話になる。

4日目、本日の山行は2年前に登った慶州南山だが、今回は東口からのコースである。

天気は快晴で最高の登山日和で、

参加者の感想など

日韓親善登山に参加して



星子貞夫

遠く 智異山 に遊ぶ

石段 延々として 斜めなり

奇岩 累々として 黄煙に煙る

韓人 皆拝す 法界寺

松緑 清水に佇む 中山里

李建旭 様

5月1日〜4日の4日間の親善

最後に全員が輪になって「アリラン・坊がつる讃歌」の大合唱の後、解散。

2日目、いよいよ天王峰目指して登山開始。我々11名と韓国10名の合計21名である。

国立公園のゲート登山口(637m)から本日の目的地チャントモク山荘(1,653m)まで高度差約1000mの行程である。

山桜や濃いピンクのミツバツツジが一行の目を楽しませてくれる。

滝のある流岩瀑布で昼食。ここから岩だらけの最後の急登で13時に山荘到着。三班に分かれて自炊、夕食後21時就寝。

3日目、7時30分に小雨の中、山荘スタート。1時間半ほど岩だらけの山道を登り、山頂直下の鉄製の階段を一步一步登り、ついに天王峰の山頂に到着。石碑の前で加藤団長が韓国の山仲間へ感謝の意味をこめて万歳三唱をし全員で記念撮影をし下山。

私と蔚山支部との交流

釜山は今回

登山は今回

が4回目になる。我々の希望で韓国本土最高峰の天王峰(チョナンボン)という事で、大いに期待しての参加であった。

釜山港に到着と同時に、出迎える李顧問と天王峰登山基地の中山里の民宿へ向かう。途中、高速道路からの風景が霞んでいる。かなりひどい黄砂である。

初日の歓迎会は、李顧問、慶南支部の崔支部長の歓迎挨拶に始まり、東九州支部長の加藤団長のお礼の挨拶、続いて参加者全員の自己紹介が行われ大いに盛り上がる。

11時に法界寺(ポップケサ)到着。お寺では釈迦生誕祭で提灯が境内いっぱい飾られ、多くの参拝者が熱心に祈っていた。一気に下り、中山里の食堂で昼食の後、蔚山支部の会員の車4台に分乗し蔚山へ向かう。蔚山到着後、中心部の韓国料理店にて夕食、その後新築間もない李・金ご夫妻宅で宿泊のお世話になる。

4日目、本日の山行は2年前に登った慶州南山だが、今回は東口からのコースである。

天気は快晴で最高の登山日和で、



下川幸一

韓国山岳会蔚山支部との交流登山に参加して

私と蔚山支部との交流

釜山は今回

登山は今回

が4回目になる。我々の希望で韓国本土最高峰の天王峰(チョナンボン)という事で、大いに期待しての参加であった。

釜山港に到着と同時に、出迎える李顧問と天王峰登山基地の中山里の民宿へ向かう。途中、高速道路からの風景が霞んでいる。かなりひどい黄砂である。

初日の歓迎会は、李顧問、慶南支部の崔支部長の歓迎挨拶に始まり、東九州支部長の加藤団長のお礼の挨拶、続いて参加者全員の自己紹介が行われ大いに盛り上がる。

11時に法界寺(ポップケサ)到着。お寺では釈迦生誕祭で提灯が境内いっぱい飾られ、多くの参拝者が熱心に祈っていた。一気に下り、中山里の食堂で昼食の後、蔚山支部の会員の車4台に分乗し蔚山へ向かう。蔚山到着後、中心部の韓国料理店にて夕食、その後新築間もない李・金ご夫妻宅で宿泊のお世話になる。

4日目、本日の山行は2年前に登った慶州南山だが、今回は東口からのコースである。

天気は快晴で最高の登山日和で、

三度目の訪韓

風もさわやか、気持ちがいい。途中で淡いピンクのヤシオツツジが咲き誇っているのに出会う。大分の県南山域で見るアケボノツツジとよく似ており大好きな花だ。

よく整備された登山道を進み、11時25分にクンオウサン468mの山頂到着。立派な山頂石碑の前で全員の記念撮影をし下山する。



中野 稔

二年後の韓
国訪問が、今

下山後、近くのおしゃれな古民家で韓国料理の昼食を楽しむ。その後、李さんの案内で、岩に刻んだ石器時代の画を展示する世界遺産の博物館と実物の岩刻画を見学する。ここで日韓のメンバー全員で記念撮影をし、我々は蔚山支部の見送りを受けて3台の車に分乗し釜山へ向かう。

李顧問をはじめや蔚山支部会員の皆様の心温まる歓待と山行中の行き届いた気配り、そして天王峰の地元慶南支部の崔支部長の2日間わたる山行（特に山荘でのおいしいバレンタインウィスキーや間食の差し入れ等）での気配りには心から感謝、感謝。

韓国本土最高峰の天王峰山頂からのすばらしい眺望を目に焼き付けながら釜山港を後にした。

お世話になった皆さんに「カムサハムニダ」、ありがとうございました。

から楽しみである。三度目の訪韓で智異山登山と決まった時、縦走なら良いんだがと思ったが、団体行動で行くので流れに任せた。一般的な縦走コースは姓三峠（ソンスムジエ）から老姑壇（ノゴダ）へ上がり天王峰（チョナンボン）へ登頂後、中山里（チュンサンリ）へと下山する。宿泊は、碧宵嶺（ベツソリョン）やヨナチョン山小屋で一泊、チャントモク山小屋（今回お世話になった）で一泊の二泊三日。重廣さんはもう少し西へ足を延ばしたらしい。久保さんと下川さんは乗り気だ。

智異山国立公園は、1967年12月29日に韓国の国立公園に指定された場所である。種々子島が500m、屋久島が505m、霧島国立公園が502mである。昭和9年に雲仙、瀬戸内海と共に日本で初めて国立公園に指定されたと聞く。霧島屋久国立公園は年間の訪問客は一千万人らしい。

3・11の震災は、原発事故の影響で外国人観光客の減少をもたらしたが、快適な船旅となった。

911、117、これからも起きる避けられない災いだ。百年後人類は20世紀や21世紀をどの様に振り返るだろう。日々の暮らしの中で宇宙を語る事はタブー視されて、忌み嫌われている。百年後、二百年後は、人類は、宇宙地球号の船長としての自覚を持つようになる、そんな考えが普通になっていく筈だ。

日本の隣国である韓国は、同じ様な問題を抱え共通の敵と対峙している。徴兵制が有るか無いかの違いが大きい。そんな光景をチャントモク山小屋で見学できた。この惑星で徴兵制の無い唯一の国家だ。これを皮肉と取るか、死守すべき蠟燭の一灯と取るかは読者の自由だ。

三泊目は、李先生の新居に泊めさせてもらった。わが生涯で最も緊張した一夜となった。生活習慣の違い民族であるが、母から聞いていた朝鮮人の家庭とは雲泥の差だ。江戸時代の日本人の家庭を連想すればいいだろう。洗練さ、住む人の知的水準に比例するのかもしれない。先生は、親日家であり世界的視野を持つスマートな人だ。息子さんも世界を相手に生きている。

南山は三度目の登山だ。標高的には高崎山よりも低いが観光地として、古都の後見人として存在しているような山だ。標高は468

m（ヨーロッパ）として覚えれば生涯忘れないだろう。慶州は日本で言えば京都の様な所だ。一つの山に登る時、今までに登った山々の登山口から登山道、山頂達の風景がその時の感情を伴いフラッシュバックで蘇るから楽しいのである。蔚山支部のメンバーは、全員集合とはいかないが、手厚いおもてなしには胸が熱くなる。

四泊目は、アメリカ客船だ。食事は夕食、朝食釜山港、博多港にそれぞれ停泊中に頂いた。そこで働く人たちの心意気も頂いたよ。うな気がして、今でも思い出たちが、明日への元気と活力を与えてくれる。「この惑星の住人が、百人の村人だったら」と言う寓話を思い浮かべると、切ない気分になるものだ。自由に旅行出来るのは10人に満たない筈だ。

韓国・智異山



久保洋一

5月1日

JRで福岡へ、福岡からはピ

ートルで釜山へ。釜山港で韓国の懐かしい面々と再会できた。再会を喜んでお互いに握手を交わした。そのあと2台の車に分乗して高速

道路を利用し、ソベク山脈の最南端に位置する、智異山へ向かう。今日はその麓の中山里（チュンサンリ）に宿泊する予定だ。約3時間の車の移動で中山里に着く。天気は悪くないが少し霞んでいる。黄砂だろうか？中山里の民宿に荷を降ろし、少し休んで夕食は登山口にあたる広い駐車場の前の食堂へ移動した。そこで地元支部の崔支部長も加わり20人以上が食堂を占拠する形で一斉に食事をした。

あり冷たくて美味しい水を頂いた。のマイクロボスにて最初の登山口

2日目の宿泊地であるチャントモクに到着。登山口から高度差約1000mを何とか登りきった。しばらく休憩の後、小屋に荷物を置き、遠くは般若峰へと続く縦走路を南西に向かって進み帝釋峰、蓮下峰を過ぎ1667日のピークまで足をのびした。

この交流登山には大分で二回韓国で一回参加しているので韓国の蔚山山岳会のメンバーの方たちと度かなり顔なじみになり、年に一度の再会を楽しみにでかけた。

今回で三度目の韓国山行である。

小屋に戻り、小屋の横のテラスでしばらく寛いだ。崔さんにもここで、おでんなどを振舞ってもらった。また、高級なスコッチウイスキー「バランタイン」で皆んなで乾杯をした。その後、日本チームは3班に分かれて各班持参のレトルト食品などで賄いをした。午後6時には就寝。

5月3日 5時30起床。朝食後7時30分出発。天気曇り。朝起きた時は少し小雨が降っていたが結局は雨は降らず着込んだカッパも少し登った展望所で脱ぐことになった。

5月4日 前日も、前々回の行った慶州南山に今までは別の東口から登った。その後、郊外のところでも落ち着いた霧囲気のあるレストランで昼食。この食事が一番美味しかったように思う。それから川の岸壁に彫られた石器時代の壁画などを博物館であらかじめ映像やレプリカで予習をし現地へ案内してもらった。

5月5日 朝7:30福岡着。JRで1:00大分駅着。

さらに進んだコルで崔さんが「オレンジタイム」といい、休憩。私たち全員に韓国の人たちがオレンジを振舞ってくれた。このオレンジはとても美味しかった。途中岩場を通り、天王峰(1915m)に到着。

山頂は360度の眺望がきく。山頂で記念撮影、万歳三唱をし下山。下り始めてしばらく行くと水場があり、さらに下って広い岩場で休憩をした。途中カタクリの花の群生地があった。中腹にある法界寺に立ち寄って、寺への搬送用

山行については別途報告がなされますので、韓国山行で感じたことを二、三記したい。

①. 今回も前回と同様、韓国山岳会蔚山支部の岳友の皆様より、手厚い歓待を受けたことである。特に、今回は智異山の地元韓国山岳会慶南支部の崔支部長様に山行のガイドから、宿や食事手配などを駆使しての、楽しい会話、魔法のリュックから菓子、果物、飲み物などを、休憩のたびに頂き、小屋では高級スコッチウイスキーを振る舞って下さり、大感激でした。韓国の岳友に心よりの感謝を申し上げたい。

山頂は360度の眺望がきく。山頂で記念撮影、万歳三唱をし下山。下り始めてしばらく行くと水場があり、さらに下って広い岩場で休憩をした。途中カタクリの花の群生地があった。中腹にある法界寺に立ち寄って、寺への搬送用

この交流登山には大分で二回韓国で一回参加しているので韓国の蔚山山岳会のメンバーの方たちと度かなり顔なじみになり、年に一度の再会を楽しみにでかけた。

②. 今回の山、智異山は、韓国本土の最高峰であることもあり、登山者が多かった。特に若者たちが多いのが印象的であった。日本とは反対で、若者パワーを感じた。韓国の高校2年生、約100名が同じ山小屋に泊まっていたが、きびきびとした行動、礼儀正しいあいさつなど、すがすがしく感じた。この若者たちが韓国の将来をなうと思うと、韓国の未来に明るいものを感じた。

③. 5年前から3回釜山、蔚山の

蔚山交流登山に参加して



下川 智子

2001年5

月1日から5日までの蔚山交流登山に東九州支部の一員として参加した。

用意もしていたけれど山荘の中はオンドルで夜も暑いくらいだった。3日目、ついに天王峰へ向けて出発。朝は小雨が降っていたけれどまもなく止み山頂へと進む。

山頂直下は急で苦手なはしごやロープもあり緊張しながらの登りだった。少し立ち往生しているとすぐに蔚山のメンバーが手を貸してくれ韓国の男性の優しさと逞しさに触れる山行でもあった。

山頂からの眺めは素晴らしく360度見渡す限りの山々は緑深くどこまでも続いていた。

蔚山山岳会と日本山岳会東九州支部のメンバー全員での写真撮影のあと、下山開始。

しかし、今回の山行の韓国側リーダーの崔一さんはじめ蔚山支部の皆さんが休憩のたびにお菓子や果物を持って待っていて日本人メンバー一人一人に手渡してくれ、その温かいもてなしに勇気づけられまた元気をだして登ることができた。

午後1時過ぎ、何とか山荘に着いたけれど山荘の規則で中に入るのは夕方ということで、休憩のあと、智異山縦走路を歩いて時間をつぶした。

夕食は3つのグループに分かれそれぞれ自炊で私たちはレトルトのカレーとサラダを作った。

山の上は寒いかと思いい防寒着の

毎日1時間半のウォーキングを日課にしている足には自信があつたけれど、平地歩きと山歩きは全く別物ということを感じ知らされた。

やはり登山をするには山を歩かなくてはいけないということを確認させられた。しかし今回の山行を通じ蔚山山岳会の方々の言葉を超えての交流は楽しく忘れられないものとなった。ありがとうございました。

韓国内部の一部を見てきたが、高速鉄道、釜山港、高層ビルなど年々発展しているのを実感した。釜山は貿易都市、蔚山は現代自動車を中心とした企業城下町として発展している。我が国の政治経済の現場を見ると、韓国に追いつかれる日も近いのではと感じた。

日韓交流登山に参加して



宮本眞理子

今回ようやく
やく念願叶って韓国へ

の交流登山に皆さんと参加することが出来ました。以前より「蔚山」と言う言葉の響きには懐かしさを感じていました。それは今は亡き義母から慶尚南道蔚山郡鶴城公立国民学校に結婚後すぐに奉職した時の話をよく聞かされていたからかもしれません。こんな事もありました。

いだろうから・・と。もちろん今回の韓国行きにも義母の写真を忍ばせていきました。ビートルで到着した釜山の街の勢いを目の当たりにして今浦島になった心境でした。

5車線の高速道路に圧倒されるから中山里の民宿に到着しました。夕食後の蔚山支部の皆さんとの交歓会では「アリラン」や「坊がっる讃歌」の大合唱にこころが熱くなる思いがしました。翌日からの天日峰登山では小休憩のたびに果物やお菓子、手作りの韓国餅等のお接待を受け、翌朝は念願の韓国一高いお山天日峰の頂上に立つことができました。

さっそく、朴さんの弟さんが義母の写真と一緒に登頂記念をカメラに納めてくれました。下山の途中で立ち寄った法界寺では旧暦のお釈迦さまの生誕法要が執り行われており、参拝者のひとりとしてお参りすることが出来ました。三日目の宿を提供して頂いた李支部長さま宅では奥さん心づくしのアワビ粥をごちそうになり、大変美味しかったです。

四日目、世界遺産の南山はお山全体が仏教遺跡群にて山頂より眺める眼下の風景に遠く新羅の都を重ねていました。柔和なお顔の石仏さまのお姿に和まされ、かたくりの群生に皆で歓声をあげたりと楽しいひと時を過ごさせていただきました。

今回の訪韓は私にとってかけがえない思い出の旅となりました。

度重なる歓待の食事会、お土産の数々、蔚山支部の皆様のごころからのおもてなしに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

韓国の山仲間の優しさにカムサハッスムニダ



飯田ひとみ

日韓交流
登山の韓国
行きは、今

回で3回目の参加である。毎日1時間ほどのウォーキングで体力づくりをして、装備のチェックも念入りに行い、その日に備えてきた5月1日、別府駅6時7分発の電車に乗って、大分から乗ったみんなと合流。「今回の標高1915mの山はどんな山かな？」と心に思い描きながら、みんなと一緒に韓国へ向かった。

釜山港へ着くと、久しぶりに出会う韓国の登山仲間が迎えに来てくれた。その夜は、智異山登山口のある、中山里（チュンサンリ）の民宿泊まりである。アリラン、トラジトラジ、坊がっる讃歌の大合唱などで友好を深めた。

2日目は天王峰の八合目にある山小屋（チャントモク山荘）まで

の登山である。雨の心配もあった天気予報ははずれ、うす日の射す絶好の登山日和。歩き始めて汗が出始めたころ、催支部長がキュウリを配ってくれた。このキュウリの美味しかったこと。それから30分おきの休憩ごとに、キットカット、ギョウザ、チョコレート、オレンジなど・・・、催支部長のザックはまるでドラえもんポケットみたい・・。おかげで疲れずに目的地の山小屋まで楽しく登れた。

3日目は山小屋から今回の目的の山、智異山の主峰・天王峰（1915m）へ。催支部長の「レッツゴー」の合図で出発。小屋を出る時には心配していた雨もすっきり上がり、山頂は良い天気。記念写真を撮って法界寺経由の道を下った。法界寺で催支部長が配ってくれたブドウがまた美味しかったこと。智異山は登山道も良く整備されていて、もう一回登ってみたいと思う山であった。

蔚山では李さん、金さん夫妻の自宅に泊めて頂き、御馳走になり、奥さんの心温まるサービスには感謝、感謝。4日目は今回で3回目の南山への登山である。この山は登山ルートがたくさんあり、前とは違った文化財を見ながら登った。今回もいろいろなお土産をもらい、李・金夫妻はじめ、サービス精神あふれる催支部長、山ではとてもタフで、スーツを着たらとんでも紳士の鄭さんなどのほか、今回も、韓国の方々のたくさん

優しいさにカムサハッスムニダ（有り難うございました）。

あとがきにかえて



飯田勝之

今回もまた、韓国の

山仲間の親切さ、優しさ実感させられた訪韓であった。韓国山岳会蔚山支部との付き合いはもう足かけ8年にもなる。初めのうちは随分心遣いのある人たちだなあと思っていたが、度重なるうちに、それはもちろん心遣いではあるが、我々日本人の思う心遣いとは違うものがあると感じてきた。

日本における心遣い、それはサービスであり、価値であり、時には対価の意味もあり、それは必ずお返しにつながる。特に、経済大国となつて以降の日本においては、それは顕著である。そうした、日本における心遣いとは違ったものがあるように感じてきた。

もちろん、生粋のアンチ国際派の私は、生まれて以来何十年、外国人とのあいだに本来の意味で心うち解けあい、心の通いあった付き合いをしたことがない。知っているのは、映画や、小説や、あるいはマスメディアを通じて知る外

国人のことであり、その結果得た知識などであるから、底は浅いし、比較、対比は常に自分の日常生活、日本の常識的な価値観や見方をベースにしている。

しかし、蔚山支部との付き合いを重ねるうちに、それは少し違おうと感じてきた。彼らの親切、優しさ、サービス、それは押し売りでもなく、またお返しを期待してのものでもなく、日常の生活の中からにじみ出るもののように思えてきた。

この付き合いを、今後どのように息長く続けていけるか。それは偏に我が東九州支部の、心と体力とその結集力にかかっていると思う。

韓国の文化は、そのベースに儒教を重んじたものがある。それが、韓国の古さを残してきたという指摘もあるが、一方で我々に対して接してくれる彼らのサービスのかたちとなっているのではないだろうか。

かつて、ベトナム戦争に参加した各国軍の中で、ベトナムや北ベトナム兵が一番イヤがったのが、アメリカ兵ではなく、命知らずな戦い方をする韓国兵だったと聞く。サッカーの日韓戦で見せる実に荒つぽくパワフルな韓国選手を見ると、さもありませんかと思うのであるが、その一方で、今回の慶南の催支部長の細心の、そして剛胆な心配り、毎回感じる李・金夫妻の人情あふれる、そしてちよつとおしゃれな心配り。それに、蔚山支部会員のみんなの笑顔と優しさ。私の心の中で、韓国に対するイメージが入れ替わり、言葉は通じないが心の通い合える山仲間を得たとしみじみ思うのである。



(お土産品の陳列)



(日韓の三支部長)



(日韓きれいどころ勢揃い!)

日本山岳会東九州支部報 号 外
 日韓交流登山特集号
 2011年(平成23年)6月25日(土)
 発行者 加藤 英彦
 編集者 飯田 勝之
 発行所 〒874-0820
 別府市原町5-14 飯田方
 TEL・FAX 0977-21-3437



(.....)